



東地中海地域ニュース

イラン情勢(20) : 混乱する大統領人事

(7月27、28日付毎日新聞、産経新聞)

研究員 山崎 和美

メフル通信は国会筋の情報として、アフマディーネジャード大統領の2期目の就任式が8月5日に行われると伝えた。しかしながら、人事をめぐり保守強硬派の政権内で対立が生じており、就任式に向けて、さらなる混乱が予想される。

(1) 7月16日、マシャーイー副大統領を筆頭副大統領に昇格するも、任命撤回

マシャーイー文化遺産・観光担当副大統領は、大統領の親族で、昨年、「イスラエル国民はイランの敵ではない」と発言して問題となった。

筆頭(第一)副大統領への昇格問題では、保守派国会議員200人が大統領に取り消しを求め、大統領を一貫して支持してきた最高指導者ハーメネイ師も大統領に任命撤回を求める書簡を送り、大統領はしぶしぶ応じた。

大統領がハーメネイ師の書簡を数日間無視し、書簡が国営テレビで公表された経緯もあり、ハーメネイ師と大統領の間にも亀裂が走っている。

(2) 7月26日、モフセニー・エジェイー情報相を解任

同日、サッフアール・ハーランディー文化・イスラム指導相が辞表を提出

22日の閣議で、マシャーイー氏の人事をめぐり、モフセニー・エジェイー情報相らが大統領を厳しく批判したことが原因と見られる。

メフル通信は26日、情報相、文化・イスラム指導相の他、バーゲリー・ランキャラクターニー保健相、ジャフロミー労働・社会問題相の4閣僚が解任されたと報じた。その後、大統領府は情報相の解任を発表し、他の3閣僚については否定した。2人以上解任すると退任閣僚が過半数となり、国会の信任が必要になると認識し、1人だけの解任にとどめたとみられる。

だが、文化・イスラム指導相は自ら大統領に辞表を提出し、「私はもう大臣ではない。政権は空白になった」と語った。

これで政権は2005年の発足以来、21閣僚のうち過半数の11人が退任したことになり、憲法規定で閣僚全員が国会の新たな信任を受ける必要が出た。政界要人から「政権はもはや非合法だ」との発言が出るなど、政治混乱が高まっている。